

「介助犬デモンストレーション」実施

平成 30 年 1 月 26 日 (株)C I J 横浜本社内会議室

平成 30 年 1 月 26 日弊社会議室にて、「介助犬デモンストレーション」を実施しました。

弊社ではCSR活動の一環として、介助犬の支援活動を行っています。

会社として応援する以外に、『私たちにできること』を社員一人一人が考え行動するため、日本介助犬協会様にご協力いただき、介助犬の必要性や普段どのような訓練を行っているのか、広報犬のダンク（ラブラドルレトリバー・3歳）とハッシュ（ゴールデンレトリバー・3歳）が、デモンストレーションを見せてくれました。

介助犬を必要とされる方は、物をしっかり掴むことが難しく落としてしまう事が多いそうです。

落とした物を拾うという動作は車椅子からの落下など危険を伴うため、側に誰もいない時や、周りの人に頼む回数が増えてしまうような時に、拾う事を諦めることが少なくないそうです。



【コインを拾ってトレーナーに渡すダンク】

デモンストレーションでは、床に落ちたコインを咥えて手のひらに渡す作業や、水分補給のために冷蔵庫からペットボトルを持って来る（冷蔵庫もしっかり閉めます）作業を見せてくれました。一つ一つの作業を嬉々として行う姿は、「仕事は楽しく！」とこちらが教えられました。

一連のデモンストレーションの中で特に心に残ったのは、犬達の堂々として落ち着いた様子です。

日々、介助犬と向き合い、作業を飽きさせないように工夫を重ね、楽しみながら訓練を続けて来られたトレーナーの方達にも大変感心しました。



【トレーナーからの指示を待つハッシュ】

盲導犬や介助犬として活躍している犬の多くが、ラブラドルレトリバー、ゴールデンレトリバーといった、人と一緒に狩猟をするために作り出された犬種です。この犬種は、頭が良く、とても温厚で、人と一緒に働く事、人から褒められる事が大好きなのだそうです。

介助犬としての訓練を進める中で、その犬がストレスを感じる事無く、楽しくお仕事が出来ているかどうか慎重に確認が重ねられます。最終的に介助犬としてお仕事が難しいと判断された犬は、広報活動を行ったり、一般の家庭でペットとして暮らすそうです。中には、軽度の障害があるお子さんのいるご家庭に譲渡され、お子さんのパートナーになった犬もいるそうです。

介助犬は、障がい者の方の日常生活動作を助けるという側面以外に、その方の心のケアも担ってくれるのだそうです。

デモンストレーションの最後に、街で介助犬や盲導犬を見かけた場合の注意事項をお聞きしました。犬をジッと見つめたり、犬に声を掛けたりすると、犬の集中力が途切れてしまう可能性があり利用者の方にとって大変危険です。

「優しい無視」を心掛け、心の中で応援することも教えていただきました。

C I J は、これからも介助犬の普及促進と育成支援を積極的に推進していきます。

<以上>